

「総務省の政策評価に関する有識者会議」（第1回会議）

議事概要

- 1 日時：令和6年5月20日（月）15時00分～17時00分
- 2 場所：総務省低層棟102会議室（中央合同庁舎第2号館）
- 3 出席者：次のとおり（※は座長）。
 - （1）総務省の政策評価に関する有識者会議構成員
北大路信郷 明治大学名誉教授※
重川 純子 埼玉大学教育学部教授
新藤 健太 日本社会事業大学講師
田渕 雪子 行政経営コンサルタント
西出 順郎 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授
山本 清 東京大学名誉教授
 - （2）総務省
令和6年度評価対象政策の担当者等

4 議事概要

各政策の部局担当者から、評価書骨子案について説明後、有識者から御意見を伺った。各政策共通して示された主なポイントは以下のとおり。

- 取組について、中心的な課題が何か見えてこない。政策評価は課題を解決するためのツールであるため、取組の現在地・進捗を把握し、目標と比較して分析の上、将来に向けて何をどこまで達成したいのかなど具体的な記載を行う必要がある。
- 例えば、現況として単に実績の数値を記載するだけでなく、指標の達成率などを記載するほか、時系列で目標と実績を整理することで、取組の現在地・進捗を把握するのはいかがか。
- 取組の現在地・進捗を確認し、得られた事実に対して価値判断を行うこと（例えば、取組が予定通り進捗しているため、引き続き既存の取組を推進する、取組を行っているが、想定のとおりアウトカムに寄与しない等。）。次に、現在地・進捗を踏まえて課題を明らかにし、課題の原因・理由は何かを分析した上で、今後どのような取組を行うか、又は現在行っている取組が妥当である旨説明がなされるとよい。

- 効果発現経路（ロジックモデル）は、再度整理が必要。主語・目的語を補って記載、アウトカムとアウトプットの精査、アウトプット・アウトカム間の対応関係やロジックの流れを整理し具体的に記載するなど改めて見直されたい。

（文責：総務省大臣官房政策評価広報課）